

基礎資料編

ごあいさつ



平素よりJA新ひたち野をご利用、お引き立て頂き誠にありがとうございます。

当組合に対するご理解を一層深めていただくために、本年も「2016JA新ひたち野の現況（JA新ひたち野REPORT）」を作成しました。ご高覧頂ければ幸いに存じます。

昨年2月、3JAが合併し新ひたち野農業協同組合として発足しました。初年度につきましては何かとご不便ご迷惑をおかけしましたが、各事業とも順調に推移しております。これも偏に組合員・利用者のみなさまのご理解ご協力と感謝申し上げます。

本年も組合員・利用者・地域住民の皆さまから支持される・信頼されるJA新ひたち野を目指して、役職員一丸となって精一杯取り組んでまいりたいと存じますので、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年5月

新ひたち野農業協同組合
代表理事組合長 久保田 恵一

経営理念・経営方針

JA新ひたち野の経営理念

JA新ひたち野は「食」と「農」と「緑」を守り、地域の発展と豊かな暮らしの実現に貢献し、組合員をはじめ、みなさまから信頼されるJAを目指します。

JA新ひたち野の経営管理の基本方針

①農業振興面

生産基盤の強化、販売力の強化及び営農指導力の強化に努めます。

②くらしの活動面

地域住民のニーズに応える事業展開や次世代対策と職能教育の実践を行い、さらに地域住民のライフラインの拠点化を進めます。

③経営管理部門

JAの健全経営を図るため財務基盤を強化し、経営管理体制（ガバナンス）の確立を強化いたします。さらに支店機能の充実強化に努め、職員教育の強化を図ります。

【営農経済部門】

地域農業の振興を図るとともに、地域社会における重要な産業としての位置づけをさらに高めます。管内で生産される主要品目に対し、安全・安心・安定生産対策や効率的低コスト生産技術を導入することで生産基盤を強化するとともに、品質向上に努め術儒者評価をさらに高めることで、JA新ひたち野管内における単価アップに努め、農業者の所得増大への貢献を図ります。また、青年部・女性部組織を中心に協同の力を発揮し、組織の活性化と育成を図るとともに、組合員及び地域住民のニーズに応え、安心して暮らせる地域社会づくりを目指します。

【信用共済部門】

信用事業においては、農業環境・地域環境の変化に伴い、事業の利用者と利用量の縮小が懸念される中、取引基盤の核である組合員と次世代との関係を強化し、利用者の視点に立脚した推進方法に転換し地域金融機関として農業メインバンク・生活メインバンクとしての機能を発揮します。

共済事業においては、LAやスマサポが担当する全ての世帯に対してニーズに即した丁寧な推進活動を実践し、組合員・利用者等との間に強固な信頼関係を築き、地域から必要とされるJA共済をめざします。

経営管理体制

当組合は農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。組合の業務執行を行う理事には、組合員の各層の意思反映を行うため、女性部などから理事の登用を行っています。また、信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

事業の概況（平成27年度）

平成27年度決算の概要と主要業務の概況

平成27年度において総資産は75,854,092千円、純資産は4,258,377千円、事業利益は37,347千円、経常利益は91,004千円、当期剰余金は63,200千円でした。

○信用事業

貯金残高は、定期貯金の懸賞品付合併記念キャンペーン及びウインターキャンペーンの金利上乗せの実施や年金相談会・年金受取口座の指定替え推進により、個人貯金が増加し68,897,602千円となりました。

貸出金は、休日ローン相談会や住宅メーカーへの訪問推進を実施し住宅ローン等は増加しましたが、地方公共団体の貸出金償還の影響のため減少し9,371,795千円となりました。

預金残高は個人貯金の増加、貸出金の償還により増加し57,534,339千円となりました。

○共済事業

長期共済保有高は、満期・中途解約及び契約者の保障ニーズが満期型から保障重点型に大きく変化し、保有高は減少傾向が続いております。新契約推進は、「ひと・いえ・くるまの総合保障」の確立に向け、「3Q訪問活動を通じたあんしんチェック」と「エリア戦略の展開」により長期共済は生命共済と建物共済、短期共済は自動車共済を中心にしました。

○購買事業

生産資材については、春肥・農薬予約注文書において取扱品目・様式の統一化を図り、3地区統一版を作成し、安全で安心な肥料農薬の普及拡大に取り組みました。また、低コスト生産資材の普及拡大と土壌診断による適正施肥の指導等、生産コストを下げる資材の取り組みを行いました。生活物資については、新茶等組織品目を重点的に安価で安定供給に努めました。

LPガス事業においては、ガス安全化システムの普及拡大に取り組み、利用者の安全確保と自動検針による事業の効率化を図りました。農機事業においては、合併記念としてマシーネ小美玉にて地域密着の第1回3地区合同農業機械展示会を開催するとともに、全農いばらき主催のダイナミックフェア等に参加しました。

○販売事業

水稻については、飼料用米への転換が進み取扱量は横ばいでしたが、販売高については前年を下回りました。畜産関係については、前年に引き続き畜産農家の廃業、販売先の変更等の要因により、右肩下がりへの減少に拍車がかかってしまいました。青果物については、取扱数量こそ微増でしたが、年間を通して高単価に恵まれ前年実績を上回る結果となりました。昨年オープンした「空のえき そ・ら・ら」、3年目を迎えた「大地のめぐみ」、この2つの直売所の委託販売の伸長により販売額向上の後押しとなりました。

○直売所事業

合併後、「空のえき そ・ら・ら」、「大地のめぐみ」、「石岡そだち」、「産地直売所みのり」の4店舗で季節ごとにイベントを開催し集客と売上向上に努めました。特にオープン2年目のそ・ら・らは高い伸びを示しました。また「石岡そだち」については、平成28年1月末をもって休業し、3月末に閉鎖いたしました。

○くらしの活動事業

広報誌「新ひたち野」を隔月で計6回発行し、組合員へ事業報告やイベント等の告知を行いました。さらにホームページの管理を行い、情報を出来るだけ早く組合員に提供できるよう努めました。

食の安全安心にかかる情報やTPP問題等を的確に伝えるため、一年を通し日本農業新聞の普及推進を行いました。

農村社会における諸問題の解決のための情報提供や生涯学習を目的とし12、1月を「家の光」の普及運動月間と定め職員一丸となって普及運動に努めました。

また子供たちへ食農教育や農業への関心を持って貰うことを目的に管轄内の小学校に対し「ちゃぐりん」の学校寄贈を行いました。

事業活動のトピックス（平成27年度）



新ひたち野農業協同組合
合併開所式

合同農機展示会（マシーネ小美玉）



青色申告会の様子



JAバンク茨城カップ
少年サッカー県大会

第1回JA新ひたち野組合長杯ゴルフ大会



大地のめぐみ 秋の収穫祭

農業振興活動



梨の目揃え会

赤ねぎについての出前授業
(南小学校)



園児による田植体験

さつまいも苗植体験 (右)



地域貢献活動

◇協同組合の特性

当組合は、小美玉市及び石岡市のうち旧石岡市を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当組合の資金は、その大半が組合員の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では、資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当組合は、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて事業活動を展開しています。

また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めています。

◇地域からの資金調達状況

- 定期貯金・・・金利上乘せキャンペーン、年金定期、退職金専用定期
- 定期積金・・・年金定積

◇地域への資金供給の状況

顧客のニーズに対応した住宅ローンの提供と認定農業者向け末端金利0%の認定農業者育成資金並びに、融資率100%借入可能な農業経営拡大資金等の取扱いがございます。

また、定期的にローン相談会を実施しております。

◇文化的・社会的貢献に関する事項

当組合は、組合員との文化的交流や地域への社会貢献を目的に以下のような活動を行っております。

- 青年部・女性部による文化的活動
- 小学生へ向けての食農教育応援事業
- 学校給食への地元産農産物の提供
- 「ごはんお米とわたし」図画・作文コンクール、書道コンクール
- 小学校一年生への黄色い帽子的贈呈
- 無料年金相談会
- 各直売所の収穫祭や感謝祭